

患者が変われば 医療が変わる 医療が変われば 地域が変わる



島根益田がんケアサロン 代表
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの(株)フジキン総務部部长兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンで益田市移住。益田ドライブインゲスクール合宿型システム作りを依頼される(ガイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第49回 えにしの会から当事者の思いを知る

毎年4月に開催される「えにしの会」。今年も東京内幸町プレスセンターで開催され、全国各地から350名を超える皆さんが集まった。7年連続で参加しているが、多様な当事者の集まりだから、毎年楽しみにしている。私もがんケアサロン

「多病気患者連携」で新しい知恵を

を運営している、がんの当事者。大熊由紀子先生の大学院生の講座で講義をしたこともある身。今年もいろいろな方々が登壇された。

- ・麻薬に溺れ大切な弟を巻き込んでしまった過去を持つ映画作家
- ・弟の抑制死の悲劇を医療改革に生かそうとする大学教授
- ・LGBTは「いない」のではなく「みえていない」だけというゲイの当事者
- ・ホームレスを支援し、「助けて」と言える社会を目指す牧師
- ・弁護士、国会議員経験者で手話も堪能な市長

これを纏めるろうのコーディネーターとカリス

マ手話通訳者などなどユニーク過ぎるほど多彩な登壇者たち。この会の特徴は毎回新しいニュースが満ち溢れていて、今後の地域活動に非常に参考となることだ。

さらに席はくじ引きで、新たな素晴らしい「えにし」が結ばれる。これが私の人脈の広さになっている。この会で結ばれた「えにし」から地元益田市へ、全国区の講師の皆さんを沢山お呼びしている。さらに毎年お呼びしたい方が次々と増えてくる。有難いことと言える。秋には少ないながらも県から助成金も付いたので「在宅関連のシンポジウム」を予定している。先週新任の益田保健所

所長と1時間対談した。在宅医療を中心に安心して住める地域づくりが主たる議題だった。その中で難病を含むいろんな当事者と、がんケアサロンが意見交換会をしたと申し入れた。どのような病気を患っていても身体と心の痛みは同じ。一堂に集まり話し合えば「新しい知恵」が生れるのではないかと感じたからだ。行政は新しいことは消極的で失敗を恐れる。私たちが先鞭をつけ、それに行政が追従する形が必要ではなからうか。そのような力を付けるために多職種連携ならぬ多病気患者の連携が有ってもいいのではないだろうか？